

産地戦略

実施期間 令和6年度

実施主体 福島県農中農林事務所農業振興普及部
都道府県 福島県
対象地域 郡山市熱海町
対象品目 日本なし



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

当地域の日本なし栽培は、高齢化が進む一方、新規就農者の確保もままならない状況となっており、産地を維持するためにはスマート農業の推進や新技術導入等による果樹経営の軽労化・低コスト化等を推進していく必要がある。

また、国が新たに策定したみどりの食料システム戦略では農林水産業の生産性向上や環境負荷低減の取組を推進することとしており、これまで交信かく乱剤を使用したIPM防除に取り組んできた当産地においても、より一層の環境負荷低減に向けた活動が求められている。

これらのことから、なし園地で自走式ロボット草刈機を導入することにより、下草管理作業の省労力化と、化石燃料及び化学農薬の使用量を削減し、産地の維持を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	人工授粉	摘果、新梢誘引				収穫			整枝・せん定				
	病害虫防除						施肥	落葉処理			枝誘引・整理		
技術名	下草管理 (乗用モアによる機械除草、除草剤散布)												病害虫防除にあたっては、交信かく乱剤を使用する。

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	人工授粉	摘果、新梢誘引				収穫			整枝・せん定				
	病害虫防除						施肥	落葉処理			枝誘引・整理		
技術名	下草管理 (自走式ロボット草刈機による機械除草、除草剤散布)												病害虫防除にあたっては、交信かく乱剤を使用する。

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R10	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	20	20	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.3	2	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0.3	2	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	0.3	2	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	乗用モア等による機械除草 除草剤散布	▶ 自走式ロボット草刈機による除草	化学農薬の使用量の低減 化石燃料の使用量の低減 除草作業の省力化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	4	▶ 1	除草剤の使用回数の削減

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

実証結果をとりまとめたマニュアルの作成・配付や報告会の開催により、技術の周知、普及推進を図る。

関係者の役割

関係者名	J A 福島さくら郡山地区 梨生産部会	J A 福島さくら 郡山統括センター営農課	郡山市農林部 園芸畜産振興課	福島県県中農林事務所 農業振興普及部
役割	技術の導入、検討	技術指導、情報発信	事業化の検討、情報発信	技術指導、情報発信、普及推進

その他